

**議事 2：取り組み内容の情報提供（研究開発）**

北海道立総合研究機構における有機農業技術の開発（R7年3月現在）

**●これまでの研究成果****1）作物別栽培技術（18 課題）****【最近の成果】**

- ① 子実用とうもろこしの有機栽培における安定生産技術と輪作体系への導入効果（R7）
- ② 安定確収のための秋まき小麦有機栽培技術（R5）
- ③ 青色 LED を利用した大豆のマメシクイガ防除技術（R6 年）
- ④ スイートコーンにおける黄色 LED を利用した鱗翅目害虫防除技術（R2）
- ⑤ 醸造用ぶどうの有機栽培における病害虫の発生実態および防除の改善策（R3）
- ⑥ 水稲有機栽培における駆動式除草機の除草時間低減効果（R5）

**2）施用有機物評価技術（12 課題）****【最近の成果】**

- ・越冬性緑肥の活用法と有機野菜への導入効果（R3）

**3）経営経済的評価（7 課題）****【最近の成果】**

- ・食品小売における有機野菜の陳列棚と POP に着目した消費拡大に係る効果（R7）

**4）環境評価（1 課題）**

- ・生物の多様性と水稲生産の調和を目指した冬期湛水技術の評価（H23）

**●現在取り組んでいる有機農業課題（中央農業試験場）**

- ①大豆有機栽培における省力・安定生産技術の開発（R5-7、生産技術 G）
- ②有機輪作品目の多様化に向けたさつまいも栽培管理技術の開発（R7-9、生産技術 G）
- ③有機栽培を志向する醸造用ぶどうにおける重要害虫に対する被害抑制技術の開発（R6-9、予察診断 G）
- ④有機農業の GHG 削減量見える化による購買意欲向上効果の解明（R6-8、農業システム G）

**議事 3：意見交換****●目下の技術的課題と次世代有機農業技術の研究開発****【課題】**

- ① 有機栽培に適する作物の選定および栽培技術の開発
- ② 有機栽培向け仕様や大規模化に対応した農業機械の開発
- ③ 道内各地域に偏在する家畜糞尿の地域ごとの堆肥製造体制の整備
- ④ 家畜糞尿の粒状堆肥化（ペレット化）と経済性改善方策の確立

### 【次世代技術】

- ① 作業負担が大きい除草作業を軽減する高性能機械除草技術の開発
- ② ICT、AI 等を活用した土壌・生育診断技術や生産管理技術の開発
- ③ AI を活用した病虫害発生予察技術の開発
- ④ 病虫害抵抗性を強化した品種の開発

### ●地域別の技術体系の構築と指導体制の構築

- ① 道内地域別に対応した各作物の有機輪作体系への導入効果の実証
- ② 新規参入者や有機転換希望者に対する技術指導については、各地域の農業改良普及センターが担っています。

### ●技術の情報共有や開発に向けた検討体制

- ① 有機農業への新規参入者や転換希望者に対し、有用な営農技術等のポイントを収集・整理した「有機導入の手引き（大豆、小麦、水稻編）」、「有機農業の経営指標」、「有機農業への転換の手引き」を作成し、情報提供しています。
- ② 道内には有機栽培生産者が主体の「有機農業ネットワーク」が組織化され、有機 JAS 取得促進研修や有機技術発表会等を通じて技術情報が共有されています。
- ③ 技術開発の検討体制について、北海道では農業試験場が所属する農業研究本部から市町村や関係機関、団体に照会を行い、研究ニーズを発掘しています（研究課題調査）。また、北海道の振興局でも地域農業技術支援会議（道の行政・普及・研究で技術解決に当たる）を通じて地域要望課題調査を行っています。これらの調査結果や既往の研究成果（道総研の研究成果、外部・府県の知見）を踏まえ、農業試験場各グループで「有機栽培関連課題」を順次課題化しています。